

「ガラス砂」工場のCO₂相殺へ

岩手の森づくり支援

「カーボンオフセット」

再使用困難なガラス製品を砂に再生加工している産業廃棄物処理会社「トーエイ」(東浦町藤江)が、国の「カーボンオフセット制度」を利用し、業務上発生する二酸化炭素(CO₂)排出量を、森づくりを支援することで相殺する取り組みを始めた。東日本大震災支援のため、投資先には岩手県の県有林保全事業を選んだ。(出口有紀)

東浦・産廃処理の「トーエイ」

トーエイは再利用しに碎機でガラス同士を五分くらい緑や青、黒色のガラ間ぶつけて角を取り、十ス製品などを原料に二〇ミ以下の粒状にするため〇五年からガラス砂を生産している。生産費は、

運送費が主の天然砂と同程度の砂より粒と粒に等以下だが、ガラスの破片と誤解され、危険なイメージの払拭が課題。破場などの地下に敷くこと
カーボンオフセット制ないCO₂排出量を、間伐度 地球温暖化の原因となるCO₂などの温室効果ガスを減らすために環境省が導入。企業などが生産時の電力などで減らせ

で、豪雨時に路面を伝わり、下水道や河川へ流れ込む雨水量を軽減できる。隙間に貯水もでき、その水をゆっくり蒸発させられるため、夏のヒートアイランド現象も抑えられる。自治体や企業の駐車場の舗装工事などで使われている。

地球温暖化対策のため、今回の取り組みは「エコ製品を作る時のCO₂排出量を抑え、次世代に森林を残す循環にでき

ヒートアイランド抑制効果も



ガラス製品を再利用して生産した砂。手前は5ミ未滴、奥は5-10ミの砂

値上げ分、県事業へ投資

「被災地に思い」と話す。今津昭社長(左)は「ガラス砂工場の三方月分の産地消」の考えで、原料CO₂排出量二十七トに相当する、CO₂削減量(ク)の市町村でも、生まれ変レジット)を岩手県から買った砂を使う流れがで四十二万円で購入。ガラきたらうれしい」と話し

販売している。一方が当たり百十円ほどの値上げになったが、担当者は「被災地の支援にもなる。この取り組みで、一見して分かりづらいガラス砂の商品価値をしっかりと示したい」と話す。



カーボンオフセットの認定証を前に「廃棄された製品がどのように再利用されているかを知れば、住民たちの「みのおし方も変わる」と期待する今津社長。東浦町藤江のトーエイで